



日本発「バイオビレッジによる自立活性化事業」

概要

- 人口 昭和35年 2058人→平成22年 145人 産業衰退による人口の流出が顕著な地域。超高齢社会 高齢化率36.5%（知的障害者更生施設の利用者を除いた高齢化率は52.6%と超高齢社会）
- 産業 林業の衰退、営林署の統廃合、JRの廃線等による地域活力の低下
- その他 不便な買物環境、住宅の老朽化、廃屋の増加による社会不安、地域コミュニティの衰退など生活の困難化が進み地域社会の維持が難しい状況

北海道下川町



事業の内容

事業内容



○「バイオビレッジ構想」により小規模集落の自立活性化を図る。

地域社会や市街地形成の維持、生活環境の向上、地域の活性化、低炭素社会の実現を目指し、小さいコミュニティにおいて、地域資源の活用、食料・エネルギーの自給率の向上、地域文化・営み・産業創造に向けた基盤強化のための調査・実証を行ない、集落の維持と自立化を目的として事業を実施する。

- ①障害者・高齢者・健常者が互いにシェアしながらソーシャル・ファームのビジネス化を目指した実証を行なう。
- ②地域の資源を活用し、コミュニティレストランや新商品の開発等の実証を行なう。
- ③超高齢化の小さなコミュニティにおける住宅・サービス・生活等のシェアのあり方の調査及び地域景観保持に関わる活動を実践する。
- ④低炭素社会の構築に向け、地域エネルギーの利活用について調査を実施。

ポイント

- ①地域住民の合意形成過程におけるガバナンス形成。
- ②地域資源（人・物・自然）の活用による産業創造
- ③低炭素で持続可能な地域の構築のための認識。
- ④地域内外の知識や人々の連携と協力による地域力の向上。
- ⑤地域おこし協力隊導入による相乗効果

事業の成果



○調査・実証を通じ、人々の助け合う仕組み（シェアシステム）の形成及び食とエネルギーの自給率向上を地域の戦略として認識することができ、さらに地域資源（人・物・自然）の活用による地域活性化が図られた。